

## 政治・経済

## 第4問 問2 「26」

## 抽象的概念を具体的事例で考察する問題で、各学力層で差がついた

問2 下線部⑤に関連して、消費者を守るための制度の一つに特定商取引法に基づくクーリング・オフのしくみをあげることができる。消費者の行動に関する次の記述ア～ウのうち、原則として特定商取引法に基づいてクーリング・オフが認められるものはどれか。あてはまる記述をすべて選び、その組合せとして最も適当なものを、後の①～⑦のうちから一つ選べ。 26

ア 内装工事の事業者が自宅を訪れ、リフォーム工事をすすめられたので契約をしたが、あまりに高額で支払いできないと思ったため、契約書面を受け取った日から8日以内に事業者に工事契約を解除したいと申し入れた。

イ ショッピングセンターにあるアパレルショップで、気に入ったデザインの洋服を購入したが、自宅で着用してみるとサイズがあわなかったため、購入した日から8日以内にそのショップに行き、返品と代金の返還を申し入れた。

ウ 街頭でエステサロンの従業員に声を掛けられ、美顔エステを受けることをすすめられたので、分割払いで契約したが、契約書面を受け取った日から8日以内にその契約を解除したいと申し入れた。

- ① ア
- ② イ
- ③ ウ
- ④ アとイ
- ⑤ アとウ
- ⑥ イとウ
- ⑦ アとイとウ

## 第4問 問2 「26」

正解率	42.8%
SS75～	90.5%
SS70～75	78.5%
SS65～70	67.1%
SS60～65	64.1%
SS55～60	57.0%
SS50～55	47.3%

2022年度第3回ベネッセ・駿台 大学入学共通テスト模試 「政治・経済」	
受験者数:	28,943人
平均点:	44.5点
標準偏差:	16.1

## 政治・経済

## 第4問 問2 「26」

## 抽象的概念を具体的事例で考察する問題で、各学力層で差がついた

## 結果分析

第4問の問2は、特定商取引法におけるクーリング・オフ制度について、それが認められるものを、具体的事例から選ぶ問題で、各学力層で差がみられました。

まず、「クーリング・オフ制度」について正確に理解しておくことが求められました。そのうえで、具体的にはどういった事例でクーリング・オフが認められるのかを整理しておく必要があります、概念と事例を結びつける力が求められました。正確な知識が求められるとともに、用語の意味と事例を整理して理解しておけたかどうか、各学力層の差に出たのだと考えられます。

## 指導のご提案

政治・経済の共通テストでは、抽象的な概念を具体例で考察したり、逆に具体的な事例を抽象的に整理したりする問題の出題が予想されます。政治・経済の学習を進めるうえで、両方の観点からさまざまな事象の理解を深めることが大切です。

また、教科書を一通り終了し、問題演習を通して知識の定着・確認や、新しい設問形式に対応する演習を進められている時期だと思います。共通テストの問題が思考力を問うものへと変わっても、土台となる知識は必要です。模試や問題集で正解した問題であっても解答する際に曖昧な部分が残っていないか解説でしっかりと確認し、改めて教科書や資料集で知識を整理することが重要となります。